



国立病院機構（NHO）宇都宮病院院内広報誌

# わかあゆ

WAKA-AYU



## 目次

- 大震災からの復興をめざして… 1
- 医療連携学術講演会 …… 2
- 臨床工学技士（ME）の仕事について …… 3
- 医療安全の取組発表会 …… 4
- なかよし保育園（1年のふりかえり） …… 5
- 高校生1日看護体験 …… 6
- 第26回日本静脈経腸栄養学会に参加して …… 6
- 外来診療担当医表 …… 7

20 **春** 11

第19号

広報誌／年4回発行

発行：国立病院機構 宇都宮病院  
発行日：平成 23年 4月 1日  
発行責任者：沼尾利郎

## 基本理念

- 1 私たちは、政策医療ならびに地域ニーズに応じた一般医療をおこないます。
- 2 私たちは、患者様の立場や権利を尊重し、患者様中心の医療をおこないます。
- 3 私たちは、良質で安全な医療を提供します。
- 4 私たちは、常に改革心を持ち、健全な経営をめざします。



# 大震災からの復興をめざして

— 失くしたものと気づいたもの —

院長 沼尾利郎

この度の東日本大震災により被害を受けられた皆様に、心からお見舞い申し上げます。1日も早い復興と皆様のご健康をお祈りいたします。

今回の災害では当院も大きな被害を受けました。地震直後から停電・断水となり、使用不能となった5病棟あわせて200名以上の患者さん（入院患者全体の約3分の2）を屋外に誘導してから隣接する岡本特別支援学校の体育館に避難したり、院内の各病棟などに分散して移動しました。その後は壊れた箇所を修復して元の病棟に戻れるようになりましたが、1病棟だけは4月1日現在でも使用できずに患者の皆様にはご不便やご迷惑をおかけしています。これだけ大きな地震の中で患者さんや職員に直接的な被害がなかったことは、本当に不幸中の幸いであったと思います。病院機能の回復に伴って新規の患者さんにも対応可能となり、現在では福島県から17名の被災者を受け入れています。

この度の震災では職員の家族にも犠牲者が出たり実家が全壊するなど、多くの被害が出ました。日々明らかになる被害の甚大さには言葉もなく、大きな喪失感や深い無常観さえ感じます。しかし、私にはこの大災害を通じて気づいたものがあります。それは困難な状況下でも互いに支え合う現場スタッフの結束力であり、節度ある冷静な忍耐力です。「患者さんを守る」という強い使命感と懸命な自助努力の姿勢には、本当に頭が下がる思いでした。

この国にとっても当院にとっても、大震災の影響や被害の全貌は未だ明らかではありませんが、社会的連帯と相互扶助の下でこの試練を乗り越えていかなければなりません。

今は静かに犠牲者を悼（いた）み、被災者の無事を祈り、救援者に敬意を表します。

# 医療連携学術講演会

地域医療連携室

地域の医療機関との連携をより一層推進するため、今年の1月と2月に「医療連携学術講演会」を開催しました。各回とも多くの参加者があり大変好評でしたので、その内容を報告させていただきます。



伊澤先生



今井先生



田坂先生



石井先生

## ■ 第8回（平成23年1月20日）

一般講演：「当院における嚥下訓練の実践」

国立病院機構宇都宮病院 リハビリテーション科

伊澤 雅子先生

特別講演：「口腔ケアと地域連携—喫食障害の予防と改善—」

獨協医科大学 口腔外科学講座 教授

今井 裕先生

## ■ 第9回（平成23年2月16日）

一般講演：「多発脳転移に対してイレッサが著効したが、経過中に髄膜癌腫症が疑われた肺腺癌の1例」

国立病院機構宇都宮病院 呼吸器科

田坂 登司博先生

特別講演：「肺癌診療の進歩と分子標的治療薬の最前線」

獨協医科大学 呼吸器・アレルギー内科 教授

石井 芳樹先生

第8回は歯科・口腔外科領域と嚥下に関する話題でした。伊澤先生は言語聴覚士（ST）の立場から当院におけるSTの役割と褥そう・NST（栄養サポートチーム）委員会の活動内容を紹介し、嚥下機能の評価方法や嚥下訓練の実際についてわかりやすく解説しました。今井先生は喫食の概念（楽しく語らいながら優しい雰囲気の中で美味しく食べることを）を初めに説明されてから、高齢者の肺炎や認知症、糖尿病などにおける口腔ケアの重要性を強調され、地域におけるチーム医療として口腔ケアの充実が大切であることを話されました。

第9回は肺癌をテーマとして、田坂先生は多発性の脳転移に対してイレッサ（分子標的治療薬の1つ）が効果を示したものの、経過中に髄膜癌腫症が疑われた30代男性の肺腺癌症例を報告しました。石井先生は講演の冒頭で、日本人の悪性腫瘍による死亡原因の第1位である肺癌は現在も増加の一途をたどっていること、増加の2大要因は人口の高齢化と喫煙であること、早期発見が困難で治療中の再発が多いことなどを話されました。その上で、近年になり新規の抗癌剤が数多く登場して治療方法が劇的に進歩しており、今後の肺癌治療には希望が持てることを豊富な資料を用いて示され、最後に改めて禁煙の重要性を強調されました。

# 臨床工学技士の仕事について

臨床工学技士 野中 康一

臨床工学技士は英語ではME (medical Engineer) やCE (Clinical Engineer) と呼ばれており、病院にある医療機器を取り扱う仕事をしています。臨床工学技士は国家資格を持った医療機器のスペシャリストであり、医療機器の安全確保と有効性維持の担い手としてチーム医療に貢献しています。

病院の病棟や外来、手術室などでは様々な医療機器が使われますが、以前はこれらを操作し点検する専門の職種がいませんでした。しかし、医療機器はますます複雑化かつ多様化しており、その構造や管理方法・操作方法のすべてを熟知することは困難となっています。また、間違った使用法による医療事故などを防ぐためにも、医療機器の専門家として臨床工学技士が誕生したのです。

臨床工学技士は「医師の指示の下に、生命維持装置の操作および保守点検を業とする者をいう」と定められており、代表的な業務は次の通りです。

## 1 血液浄化療法での業務

血液浄化療法とは体内に貯まった老廃物などを排泄あるいは代謝する機能が働かなくなった場合の治療法であり、血液透析・血液濾過（ろか）、血漿交換などがあります。これらの治療に用いられる医療機器の操作や点検を行います。

## 2 手術室での業務

手術が安全に行われるためには、使用される医療機器の操作や事前の管理が非常に重要です。特に心臓手術の際の体外循環装置（人工心肺装置）や心臓・整形外科手術の際の自己血回収装置などの操作や点検を行います。

## 3 集中治療室での業務

集中治療室とは、大きな手術をした後の患者さんや重症な患者さんを収容して集中的に治療する所です。ここでは人工呼吸器や心臓ペースメーカー、除細動器、補助循環装置（IABP、PCPS）などの操作や点検を行います。

## 4 呼吸療法業務

使用されている人工呼吸器が正常に作動しているか、各種設定が適切か、また患者さんの呼吸状態をチェックしながら各病棟をラウンドする使用中点検や使用後点検を行います。さらにはBIPAPなどの非侵襲的陽圧人工呼吸（NPPV）や睡眠時無呼吸症候群の患者さんに対しCPAP療法も担当しています。

## 5 高気圧酸素療法での業務

高い気圧の下で酸素を吸入させることで、血液中の酸素を増やすのが高気圧酸素療法で様々な疾患（突発性難聴、イレウス、一酸化炭素中毒など）の治療に用いられます。これらの呼吸に関わる医療機器の操作や点検などを行います。

## 6 医療機器管理業務

手術室や人工透析室、集中治療室、高気圧酸素治療室などにある各種医療機器の保守点検と集中管理を行い、効率的で適切な運用が出来るようにしています。



## 平成22年度 医療安全の取り組み

医療安全管理係長 小林 誠子

宇都宮病院では良質で安全な医療を提供するために、様々な医療安全対策活動を行っています。その一つに医療安全推進担当者による活動があります。平成22年度は「円滑なコミュニケーションで医療事故防止」をテーマに、各部署で様々な取り組みを行い2月には院内で17題の発表会がありましたので、その中から優秀な2題をご紹介します。

職員が他部署の問題や対策を理解し、医療安全に対する意識を高めるよい機会となっています。

### 1位入賞

### 「円滑なコミュニケーションで医療事故防止」に取り組んで

西2病棟 副看護師長 川堀 誠子

安全で質の高い医療を提供する為には、個人だけではなくチームとしての連携が必要であり、その為には円滑な「コミュニケーション」が求められます。今回、コミュニケーション不足によって起こりえる問題を明確にする為に病棟看護師にアンケート調査を実施。又、スタッフの医療安全に対する意識付けを図る為に医療安全標語の唱和方法改善を実施しました。

最初にスタッフからテーマの意見を求め、「安全第一!!コミュニケーションから～」を病棟のテーマとしコミュニケーションの改善を図る為に取り組んできました。

アンケート調査では、患者・看護師間のいろいろな問題が出ました。その中でも医師間の指示受け等に問題ありとの回答が大半を占め、チームとしての連携を考えこの事について取り組む事としました。解決策として医師との話し合いが必要となり、看護師・医師それぞれが、もっとこうして欲しいと思いつつも言えなかった事を今回の取り組みで伝達し合えた事は円滑なコミュニケーションの第1歩を踏み出したことになったと思います。解決策実施後のアンケートの結果は医師からの声かけが多くなったと大半の回答でありました。

医療安全標語の唱和方法の改善では、従来の方法では認識が浅くなってしまったので、スタッフ全員が標語を意識して仕事ができるように取り組みました。標語を唱和したからと言ってインシデントが発生しないわけではありません。医療安全に対する意識を高める事や、毎朝その日のリーダーがメンバーに伝達していく事に意義があるのです。医師も唱和に参加しており、チーム一丸となり取り組めたと思います。

医療安全とは個々人だけの努力では実現できないと思います。チームとしての連携が必要であり、その為にも意図的に意識して声を掛け合っていきたい



### 2位入賞

### 検査科内外のコミュニケーションにより円滑な業務の実施

臨床検査技師 小川 佳亮

平成22年度の医療安全の取り組み発表の中で、検査科では円滑な業務の実施に向け取り組んだ3点について発表致しました。

最初は朝の検体収集における問題点です。従来、患者採血管は無造作に試験管ラックに置かれ、検体確認作業に時間を費やし検査開始や、報告が遅くなっていました。そこで採血後の検体を順序良く並べて頂く事をお願いした結果、検体仕分けがスムーズとなり、以前に比べ検査報告が短縮されました。2点目は、検査業務における技師間のコミュニケーション不足です。用手法による検査が後回しになる事で、報告が遅れるという問題がありました。しかし、担当者同士が必ず声かけ確認する事で、連絡漏れをなくし検査が行えるようになりました。そして最後は、電話対応です。電話対応には個人差があり、また、聞き間違い・担当部門以外の検査問い合わせなど様々な問題がありました。全てのスタッフに問い合わせ時の対応として、所属・名前・内線番号を伝えることを再度徹底する事にしました。その結果以前より担当部門以外への電話が少なくなりました。また、問い合わせ内容についても、メモや伝言を残す事で他の技師でも対応できるようになりました。

コミュニケーションは検査科内外の連携を高め、円滑な検査業務を行う上で重要です。今回検査科での取り組みにより多くの問題点が改善されました。また検査環境も以前に比べ大変良くなってきています。しかし、まだまだ多くの課題が見受けられます。今後も、安全な医療・検査を行うため、他部門と協力がしながらコミュニケーションを図る事で、患者さまに安心・安全そして精度の高い検査報告が出来る様取り組んでいきます。





# なかよし保育園

(一年のふりかえり)



園長 枝野 幸子

国立病院機構宇都宮病院の敷地内に保育園があるのをご存知でしょうか？建物は病院の敷地の端にあるので、外来でいらっしゃる患者さまにはお目に留まりづらいかと思いますが、散歩がてら少し足を伸ばしていただくと保育園の建物が見えてきます。

前回、第15号（春号）でも紹介させていただきましたなかよし保育園は、病院で働く看護師さんの声で昭和44年4月に開園されました。引っ越しを重ね、平成5年5月には新築された今の建物に移り、平成23年4月で、開園43年目を迎えました。

平成22年4月から年令別の3クラスに分かれ、季節に関するあそびや製作、食育（郷土料理）を意識した行事や保育計画をたててスタートしました。



「ひよこ組・りす組」

## 春

お花を観たり、虫を探しながら散歩に出かけました。途中遊歩道を抜け病院敷地内を一周すると、約1時間で保育園に戻る散歩コースが主です。特に桜の咲いている時はとても綺麗でした。又たんぼぼをいっぱい摘んで園に持ち帰って、保育者に首飾りや髪飾りやブレスレットを作ってもらおうと嬉しそうに付けていました。

## 夏

暑～い夏でした。園庭に出ると毎日水遊びになりました。花壇に植えたミニトマトが大きくなり黄色い花が沢山咲いて青い実が成りました。少し赤くなると子どもたちは「食べられる？」と保育者に聞き、食べ頃になると毎日取りに行き水道で洗って美味しそうに食べていました。同時に植えたきゅうりも大きくなりました。「触ると表面のとげとげがいたいよ！」と保育者が言葉掛けをすると大きいクラスのお友だちがハサミを使い上手に収穫してくれました。収穫したきゅうりはおやつのにスティックにしてあげると子どもたちはみそとマヨネーズが入ったお皿の中でグルグルとつけてポリポリとおいしそうに食べていました。初めての長い竹を使った流しそうめんは子どもたちだけでなく保育者たちも盛り上がりました。スイカ割りは夏ならではの行事です。今年は特に保護者の方にスイカを頂き、何回も楽しませていただきました。

## 秋

散歩が大好きな子どもたち、散歩の日には、ビニール袋を用意してどんぐりやまつぼっくりを拾いに行きました。特に栗が落ちる時期は毎日の様に出かけ、拾ってきてはおやつにゆでて食べたり、「おかあさんにおみやげ！」と言っておうちに持って帰りました。

## 冬

寒い冬でした。大雪にはなりませんが、少し積もるとみんなで雪だるまを作りました。枯れ葉を集めてたき火で焼けたお芋はやはり美味しかったです。子どもたちもあつあつをフーフーしながら「おいしいね！おいしいね！」と言って食べていました。毎年開催される保護者主催のクリスマス会には、ごちそうをいただいてゲームをしたり、お父さんがサンタクロースになって子どもたちにお菓子が入ったながぐつをプレゼントしてあげたり、親子はもちろん保護者同士や保育者との親睦が図れる定着した行事となってきました。

ふりかえってみますとあっという間の1年でしたが、子どもたちの成長と共にその時の楽しそうな笑顔を観られたことをスタッフ一同幸せに感じています。今年度も楽しい体験が出来る様に色々な計画をたてて保育をして行きたいと思えます。

ただいま、保育園では園児を募集しています。人数の少ないクラスでひとりひとり目の届く保育を希望されていませんか？！ぜひ私たちベテランスタッフを大いに頼りにしてください。大切なお子さまを楽しく一緒に育てていきましょう。お待ちしております。（詳しくは、保育園TEL：028-671-2030まで直接お問い合わせ下さい）

## 病院ボランティア募集

当院では、外来患者さまのご案内、院内外の環境整備（清掃・除草等）などをしていただける病院ボランティアの方を随時、募集しております。あなたのやさしさをお待ちして

問い合わせ先：病院管理課まで  
(電話：028-673-2111 内線141)

## 看護師募集

いつでも  
ご相談に  
応じます

### 職 種

常勤看護師（病棟勤務）、パート看護師

新卒者、既卒者でブランクのある方も研修があり安心です。

### お問い合わせ

月～金曜日 8:30～17:00 TEL 028-673-2111 (庶務係へ)

## 高校生1日看護体験

手術室看護師長 塩澤 由香



平成23年1月6日（木）県内7校の高校から33名（内男子学生3名）の参加者を迎え、「高校生1日看護体験」を実施しました。毎年夏休みの時期に実施していますが、今年は1,2年生を対象に冬休みの時期に初めて企画しました。冬休み終盤の慌ただしい時期でしたが予想に反して多くの参加希望があり、全員の受け入れが出来ず学校に人数調整のご協力をいただいた程でした。

当日は、西1病棟・西2病棟、東5病棟・東6病棟の協力をいただき、病棟での看護体験と看護模擬体験を実施しました。病棟では、患者さんとの会話や洗髪・足浴などの援助の看護体験をすることができました。模擬体験では手指消毒体験・血圧測定体験・車椅子乗車体験を行いました。意見交換会では「患者さんとふれあうことができてよかった。」という意見の他に、「看護師になろうという気持ちが高まった。」「患者さんひとりひとりに接する看護師さんたちの心遣いに感動した。」など心強い意見や私達が元気になれるうれしい言葉ももらいました。

「看護師」を目標に自分の進路を決めている学生も多く、皆、自分の夢に向かってきらきら輝いていました。ここから、ひとりでも多く未来の「仲間」が誕生することを心待ちにしています。

## 第26回日本静脈経腸栄養学会に参加して

言語聴覚士 伊澤 雅子

今年の日本静脈経腸栄養学会（JSPEN）は2月17・18日の二日間、名古屋国際会議場で開催されました。参加者数は過去最高だったそうです。

当院の褥瘡対策NST委員会からは17日に私が『NST活動における言語聴覚士の役割』ということでポスター発表をしました。18日は伊藤知和先生が一般演題（口演）で『高度の摂食嚥下障害に対する喉頭気管分離術（喉頭離断）の有用性』を発表されました。

JSPEN初参加の私は朝から緊張していました。さらにポスター発表受付時間を間違えそうになり余計緊張してしまいました。それでも宮本栄養室長と一緒に関連企業のブースや掲示されているポスターを見学しました。NST活動、週周期栄養管理、経口摂取など様々な活動が発表されていました。言語聴覚士、理学・作業療法士の発表も想像していたより多くて驚きました。リハビリ関係者による発表はNSTに関わることに對して悩み、戸惑いなど率直に感想を述べていることが多かったように思いました。

発表時間は4分間。一応一人で練習をしてから本番に臨みましたが何とかが言いたいことは言えました。伊藤先生はじめ病院の皆さんが目の前で聞いていてくださったのも心強かったです。

とても大きな経験をすることができました。



## 編集後記

2011年、3月11日。私たち日本人にとって忘れられない日となりました。未曾有の大災害となった東日本大震災。震源地から遠く離れた宇都宮でも震度6強を観測し、当院にも大きな被害が出ました。この地震で尊い命を落とされた方々へ、改めてお悔やみと深い哀悼の意を捧げます。

診療放射線科技師 黒柳 裕一



【宇都宮病院 敷地内】

表紙撮影：松林 守（前臨床検査技師長）

# 外来診療担当医表

(平成 23 年 4 月 1 日現在)

診療科名		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
総合診療科(初診)						
内科		沼尾 利郎/ 吉川弥須子	山崎龍太郎	眞塩 一樹	田坂登司博/ 沼尾 利郎	崎尾 浩由
糖尿病・内分泌内科	午前	佐藤 稔	森 豊	太田 怜	佐藤 稔	清水 裕晶
	午後	佐藤 稔	太田 怜		佐藤 稔	
神経内科	午前	伊藤 雅史			高嶋良太郎	
	午後	伊藤 雅史			高嶋良太郎	
消化器内科	午前	坪内美佐子	菅谷 洋子	稲葉 直也	橋本 敬	菅谷 洋子
	午後	坪内美佐子	菅谷 洋子			菅谷 洋子
循環器内科	午前		伊藤 致	阿部 力		
	午後	西野 節	伊藤 致	阿部 力		
呼吸器科	午前	安西真紀子	沼尾 利郎	田坂登司博	野村 由至	吉川弥須子
	午後	安西真紀子	沼尾 利郎/ 山崎龍太郎	田坂登司博	野村 由至	吉川弥須子/ 崎尾 浩由
腎臓内科	午後				岡田和久(2・4週) [予約制]	
小児科	午後		影山さち子 (予防接種) [予約制]		影山さち子 子供養育相談ルーム [予約制](第2・4週)	
小児アレルギー外来	午後				中野俊至(1週) [予約制]	
小児神経外来	午後	奥野 章(3週) [予約制]				
外科	1 診	増田 典弘	伊藤 知和	滝田 純子	増田 典弘	伊藤 知和
	2 診	伊藤 知和	滝田 純子	増田 典弘	里村 仁志	増田 典弘
整形外科	1 診	田中 孝昭	茶藪 昌明 (初診のみ)	熊谷(第1・5週) 田中(第2・3・4週)	茶藪(第1・3・5週) 石川(第2・4週) (初診のみ)	熊谷 吉夫
	2 診	祭 友昭		祭(第1・5週) 茶藪(第2・4週) 熊谷(第3週)		祭 友昭
リウマチ科 (整形外科1診)				熊谷(第1・5週) 田中(第2・3・4週)		
リハビリテーション科				茶藪 昌明	茶藪 昌明	熊谷 吉夫
装具外来	田中 孝昭					熊谷 吉夫
歯科(入院患者のみ)			渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子	渡辺 裕子
物忘れ外来(午後・予約制)				伊藤 雅史		
禁煙外来(保険外)(午後・予約制)						沼尾 利郎
眼科(午後・予約制)						松原 忠之/ 永田万由美/ 和泉田真作
皮膚科(午後・予約制)			小田佐智子			
耳鼻咽喉科(午後・予約制)	小泉さおり					

## 外来受診案内

- 初診及び予約のない方の外来診療受付時間は、8:30~11:00 迄です。  
緊急で来院される場合は、電話でお問い合わせ下さい。
- 眼科・皮膚科・耳鼻咽喉科・物忘れ外来・禁煙外来は、地域医療連携室にて電話予約を受け付けています。
- 地域医療連携室 TEL 028-673-2374(直通) FAX 028-673-1961(直通)  
担当(ソーシャルワーカー): 永山悦子・宇梶多恵(内線 133)



独立行政法人(NHO)

国立病院機構 宇都宮病院

〒329-1193 栃木県宇都宮市下岡本町 2160

TEL 028-673-2111 FAX 028-673-6148

http://www.hosp.go.jp/~utsuno/